

全国2位の医師（人口10万人あたり）を京丹後へ

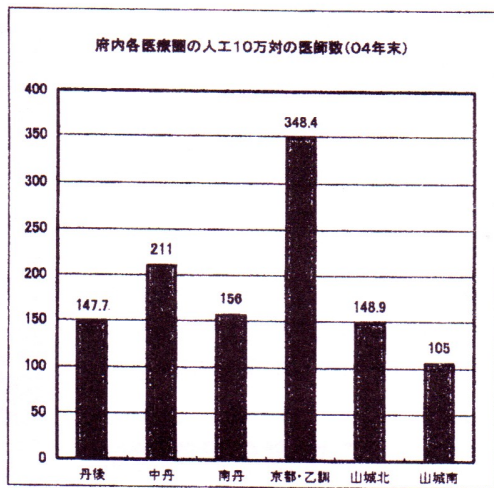
市長は本気で医師の確保をするべき

府立医大、京大と2つの医大があり、京都に医師はいますが、京都・乙訓医療圏が突出し、丹後は京都市の半分以下と、地域偏在が目立ちます（下記グラフ参照）。この医師を地方へ配置するよう対策をうっていただければこのような状況は避けられたのではないのでしょうか。京都府も他の自治体でやっている、奨学金制度や職員採用枠での医師の確保、若い医師の研修体制整備など独自の努力をしてくれませんか。

北部医療の中核をなす弥栄病院、久美浜病院を安心してかかれる公立病院として存続、発展させる上でも、医師や看護師はもちろん、何よりもこの地域で医療に携わる人たちが生き甲斐をもち、安心して働ける環境整備をするのが行政の責任ではないでしょうか。

日本共産党市会議員団は、この問題で1/19京都府に、1/26には京丹後市に強く申し入れをしました。引き続き皆さんの要望に応え全力でがんばります。

弥栄病院の産科休止。外科までも……？



外科医の3人も4月以降 辞めることが明らかに

2月7日の厚生常任委員会で、外科医3人もあいついで引きあげることがわかりました。

産科医に続き外科医までもがいなくなると、市立病院としての役割を果たすうえでも、病院経営のうえでも重大な危機に直面することになります。

市は、「突然のことでびっくりしている。いまは、後任ができるまでとお願している」と答えました。

「安心して子どもが産める丹後に！」

「産科休止に不安の声」

「一枚の張り紙に電話が殺到」

「私はどこで子どもを産んだらいいですか」「横浜の娘が里帰り出産したいと言っているのに……」ふるさと病院の受付に電話が殺到しました。

原因は弥栄病院産婦人科に張り出された1枚の告知文です。「平成18年4月からの分娩については、受け付けることができなくなりました。」2人しかいない産婦人科医が4月以降相次いで辞めることになったからです。

250人の出産ができない

市内では弥栄病院以外で産婦人科はふるさと病院だけです。しかし、月20人しか対応できません。弥栄病院で対応していた、256人（04年度）が市外（豊岡、与謝の海病院など）での病院に頼らざるを得なくなりました。あるお母さんは通院に1時間もかかり、「万一のことを考えると不安でならない」と心配されています。



ご意見など お気軽に連絡下さい	
松田 せいけい	Tel 82-0755
森 まさる	Tel 72-1761
平林 ちえみ	Tel 65-3663

日本共産党 2006年2月10日発行
市会議員団ニュース